

【搬送事案①】82才女性（肺ガン）の自宅への搬送

- ・肺ガンがあるも退院となり、今後は訪問医師や訪問看護のフォローを受けながら、自宅にて療養の予定
- ・DNAR患者であったため、搬送中の容態変化について確認した上での搬送
- ・容態変化があっても現場で待つ訪問医師のところまで搬送するよう指示あり
- ・バイタル測定を行ないながら、酸素2L/分（鼻カニューレ）投与下で搬送
- ・気管吸引の必要かもとのことであったが気道は開通しており、実施せず
- ・SpO₂は92~93%（普段通り）
- ・1階居室にある介護ベッド上に寝かせるまでを弊社の部隊が行なった
- ・到着後、自宅に用意された在宅用の酸素に切り替えを行なった
- ・現場にいた訪問医師に引き継ぎ引き揚げた

【搬送事案②】 38才女性（末期の肝臓ガン）の自宅への搬送

- ・残された時間を自宅で妻と過ごしたいとの夫からの希望あり
- ・なかなか搬送してくれる事業者がおらず、困っていると弊社に相談があったもの
- ・意識は朦朧としており、四肢はかなり細い状態
- ・骨が脆くなっているため、搬送には注意するようにと事前指示あり
- ・一戸建ての自宅の前には、故障した車があり、玄関は狭く、自宅への進入経路は極めて狭いルートであった
- ・レスキューシート（坐位の担架）にて、打撲や骨折に至らぬよう、細心の注意を払い搬送を実施
- ・自宅の介護ベッドに寝かせるまでを弊社の搬送部隊で行なった

【搬送事案③】 78才男性（肝臓ガン）の自宅への搬送

- ・肝臓ガンがあるも退院となる
- ・自宅にて療養の予定
- ・腹水が貯まっており、体重は約90kg
- ・体重に関する事前情報があったため、通常2名での対応であるところ、隊員3名で搬送を実施
- ・自宅は共同住宅の2階であったため、布担架を使用して3人で搬送を行なった

【搬送事案④】 81才の女性（精神不安定）の病院への搬送

- ・自宅にて精神不安定な状態が継続しており、大きな声を出したり、同居の家族の手を叩いたりするため、精神科救急情報センターに相談
- ・119番通報を行うも、消防局の管制員より救急出動を断られている
- ・夜間帯で搬送手段がないとのことで、家族より依頼があったもの
- ・傷病者を落ち着かせながら、レスキューシート（坐位の担架）にて搬出
- ・精神科救急情報センター指定の病院まで家族同乗にて搬送を行った

【搬送事案⑤】 66才男性の新幹線を活用した長距離搬送

- ・糖尿病のある66才の男性の転院搬送
- ・傷病者の状態に合わせた搬送方法について相談があった
- ・背部に褥瘡があり、できるだけ搬送の時間を短くして欲しいと病院関係者より事前に相談があった
- ・事前に新幹線の多目的室の予約を行ない、搬送を実施
- ・搬送中、ベッド上で頻回に体位変換を行い、体位の管理を行う
- ・搬送先の病院の最寄り駅に到着した後は、事前に調整を行っていた地域の事業者と連携を行ない搬送を行なった